

第10期 第4回小平市農のあるまちづくり推進会議議事録

- 1 開催日時 令和7年1月28日（火） 午後3時00分～午後5時00分
- 2 場 所 小平市役所 3階 庁議室
- 3 出席者 委 員：出席9名、欠席3名
事務局：出席3名
- 4 内 容
 - (1) 開会挨拶
相原会長による挨拶
 - (2) 第3回会議の検討内容について
第3回の協議内容について事務局から報告
 - (3) 今後の活動の方向性の決定と課題整理について
→協議内容については下記に記載する
 - (4) その他

以下、協議内容

【今後の活動の方向性の決定と課題整理について】

事務局より、前回の会議内容について説明をした。このことを踏まえて、農家や市、組合が「広報」を行う中で、消費者へどのように広報していくのかについて協議し、意見のほか、新しい提案を募った。また、小平市の農産物を活用した取り組みについて、事務局より動画にて情報提供をした。

【消費者へどのように広報していくのか】

- ・ 東京都の東の地域では農地が少なく、地元の農産物を食べる機会がほとんどないため、市民の方は恵まれていると感じる。児童は自宅に帰ってから保護者や家族などに「今日、小平産の野菜を食べた」と話すことで、小平の農産物が色んな人達に伝わっている。そういった意味で、こども達が農業の広報に大きく寄与している。
- ・ 学校給食の動画を見て、小平市の学校給食では安心安全な管理体制が敷かれていて、とても感心した。こういった動画を児童の保護者に見てもらうのも小平の農業の広報に繋がると思う。
- ・ 小平の地域資源には、農産物だけではなく人や建物、芸術といったものがあり、地域資源を市民だけではなく市外に伝えていくには、こういった地域資源を掛け合わせていく必要があると思う。また、飲食店においては、市内農産物をもっと使ってもらうようにチャレンジしてほしい。
- ・ グルめぐりスタンプラリーのマップを拝見したが、市内農産物を使っている飲食店には「畑からまっしぐら」のマーク付けるなどの工夫が必要だと思う。また、マップに小平産農産物をPRするサイトに移るようなリンクを掲載するのも良いと思う。
- ・ You TubeやSNSを見ないため、市の農業に関する情報は市報か、ファーマーズ・マーケットや直売所で掲載されている掲示物しかない。市報に「小平の農業」に関する欄が設けられ、掲載されれば多くの人が読むと思う。
- ・ 直売所で直接農家方々から話を聞くのも、農業に関する現状の情報が入ってくる手段である。例えば「キャベツの高騰」に関して、直売所で農家から話を聞いたことで、高

騰の理由を理解することができ、高値でも購入するようになった。

- ・ 農業団体として、市報に農業に関するページが設けられるのは大変有難いことだと感じる。一方、農業団体として農業振興と個人の宣伝が非常に曖昧であり、農業振興のために1つの農家さんをピックアップして広報するという事は避けるようにしていた。最近では、全員宣伝すれば良いという考え方をして、日本農業新聞などで小平の生産者の紹介をしてもらった。
- ・ ファーマーズ・マーケットのレジを担当しているスタッフが「今、どの野菜が美味しい」とか「今、何の野菜が一番収穫されているか」を教えてくれて、四季折々の新鮮な農産物を感じることができて非常に楽しい。
- ・ 情報を発信していないものの、「この時間帯に直売所がオープンしている」とか、「この時期にこの野菜がある」「この野菜が美味しい」といった情報が口コミで広がっている部分がある。特に、ファーマーズ・マーケットのパートさんから口コミが広がる人が多いと感じる。
- ・ 広報している情報の更新が非常に難しい。そこに掲載されている情報と異なるとクレームに繋がり兼ねないうえ、簡単に情報の更新ができない。紙ベースにしても、ネットベースにしても情報の更新というのは大きな課題であると感じる。
- ・ 果樹の面からも、その日に収穫されたものをその日に売りたい。直売所にて特別な広報は行っていないが、直売所をオープンしている時は「旗」を立てて、近隣の方にオープンしていることを周知している。
- ・ 援農ボランティアとして活動しているが、農作業の補助だけではなく、ホームページの作成の補助を行った。そのホームページで、農家が直売所の黒板に記載した販売情報、例えば「とうもろこしはいつからいつまで販売します」とか、「本日、エダマメは販売しておりません」といった情報を掲載するようにしている。
- ・ 動画作りやコマーシャルを手掛けたことがあったが、近年長い動画より短い動画が良く視聴されている傾向を踏まえ、15秒ぐらいのショート動画やリール動画で市内飲食店のPRを図っている。農産物を広報するという意味では、広報事業者が一方的に広報するのも良いが、消費者がその情報を発信したくなるような仕掛け作りも必要だと思う。
- ・ 学校給食の動画であった通り、小学校給食での地場産農産物の利用率が30%を超えていて、これを維持するというのは、農家の方々もJAも学校も市もとても大変なことだと思う。動画という広報を考えていくなら、学校給食に従事されている方々のそれぞれの苦労している部分にスポットを当てて、動画を作成するのも良いと思う。その中で、農家さんの天候不順や農薬で苦労されている話もあつたりすれば、市民からの農家の理解が促進されると共に、小平市の農業を手助けする市民も増えていくと思う。

5 次回開催（第5回）

令和7年4月14日（月）午後3時00分から